

## 2008年学長年頭挨拶

新年おめでとうございます。新しい年の始めにあたりまして、ご挨拶をさせていただきます。

昨年暮れに各学部を訪問して、大学の現状をお話し、先生方のご意見を伺いました。なかなか現状は厳しいわけですし、説明する方もお聞きになる方もあまり元気の出ない話が多かったと思います。その時に申しました様に、全国で地域ごとにコンソーシアムを作り旧帝大等の有力大学を中心として地域で連携した活動をするという話が進んでいるという事を申し上げました。沖縄では九州等に加わるのではなく、琉球大学が中心となり独立して沖縄のコンソーシアムを形成し、しっかりした研究・教育をやっていく必要があるということをお話しました。そういう事を考えますと現在経済的にも非常に厳しい状況ですが、私共の様な地方の大学は落ち着いて、しっかりとした教育・研究を発展させていく必要があると思っております。私共の大学は地域性、国際性を重視するという事が前の学長の頃からずっと目標として掲げられております。しかしながら外から見たとき、見えるものが非常に少ない訳です。しっかりとした核をつくり、外からきちんと見える様な形の地域貢献や国際性を特徴として出していく必要があると考えております。そう考えますと、本年4月から発足致します観光産業科学部が我々の大学の大きな外から見える特徴になると考えます。この観光産業科学部は、前学長でありました森田先生、それから嘉数副学長、法文学部長さんはじめ皆様のご協力で出来上がった学部であり、沖縄の特性を生かした新しいタイプの経済学部であると思っております。

次に、各学部において昨年から検討されていることについては、今年も引き続き発展させていく必要があると考えます。法文学部におかれましては、スミソニアン博物館やハワイ大学と共同で行う「人の移動」の研究が概算要求で4千3百万円の大きな経費を獲得しました。これは重要な研究の核となって発展していくものだと思います。さらに法科大学院におかれましては、司法試験の合格者を多数出されまして大変おめでたい事でございます。しかし、残念な事に概算要求を行っていましたがハワイ大学ロースクールとの教育連携プログラムは認められませんでした。これは是非今年獲得に努力したいと思っております。産業経済活動も人の移動も国際化が激しくなっておりますので、法科大学院で国際的に活躍する法律家を育てるという事も私共の大学の特色にもなる大きな役目であろうと思っております。

法文学部では、さらに色々な研究の芽がございます。それらを発展させて大学の教育研究の重要な核になっていく事が考えられます。

教育学部では、離島教育など沖縄県の困難な教育事情に対して色々努力をなさっております、これが大学の大きな特色になると思っております。次に、教員免許の更新につきましては、法律の方が先行してしまいましたが、これは琉球大学が中心として実施して行かなくてはいけないと考えています。大きな負担になりますが、これも一つのきっかけとして教育の新しい形を創り上げて行くというように活用する必要があるかと思っております。宜しくお願い致します。

次に理系の学部ですが、理学部は COE を獲得し、業績をたくさん挙げておられます。これはま

さに琉球大学の特色となり、外からもはっきり見えるものになっております。引き続きご活躍をお願いする所でございますが、拠点形成をやらなくてははいけません。ここには熟生研や遺伝子実験センター、そして海洋生産の方々を含めてご検討をお願いし、ますますの発展が期待されます。工学部では IT 関係の発展が望まれます。昨年は機械システム工学科、電気電子工学科では JABEE の認定を受けておられます。今年は環境建設工学科が JABEE の認定を受ける為の準備を進めておられます。農学部は泡盛発酵関係の研究で大きな特色を出そうと努力されています。また、昨年はウコンの研究などに成果がみられますが、さらに今後特色のある研究が多数期待されています。

今申し上げました理学部、工学部、農学部は共同して防災研究を盛んに進められております。ご承知の様に地球温暖化が進んでおり、その影響もあると思いますが、台風が非常に大型化し、強力なものが発生する傾向になっています。台風がたくさん来襲する沖縄県にとっては大変なことでございます。局地的な豪雨も起こり、それによる地滑りや河川の氾濫もございます。専門家ではないのでよく分かりませんが、沖縄県は長い間あまり大きな地震が無いと安心していましたが、どうも安心している訳にはいかないと言われていたようでございます。

このような事を考えますと大学の特徴として、また沖縄県に非常に重要なものとして防災研究があると思っております。昨年末に工学部の土木工学科創立 50 周年の記念事業の一つとして行われました防災シンポジウムは、非常に多数の方の参加があり盛況だったと聞いております。さらに工学部では、若手研究者の支援、ハノイ工科大学との交流協定等を結ばれ、ますますの発展が期待されます。

医学部では、医学部ができる前には県内の難しい病気は他大学や研究施設に分析等をお願いしておりましたので、医学部ができた頃にはいろんな大学や研究所が沖縄の材料を研究に使うため来沖し収集していき、悪い言葉で言いますと「草刈場」になっておりました。しかし医学部ができて県内の疾患の研究がどんどん進み大きな特徴ある成果を出しています。附属病院におかれましてはそういったことをベースにして癌の拠点病院化、長寿の研究、感染症の研究等が進んでおります。それからもう一つは地域医療等社会ニーズに対応して質の高い医療人を養成する推進プログラムが採択されておまして、ますます特色を出していけると思っております。図書館では、「びぶりお文学賞」や以前から実施しています沖縄に関する貴重な文献の収集を行っておられます。「びぶりお文学賞」は最近、若い方々の読み書きの能力が落ちていたりと言われていたりしますが、県内のリーダーを創るという意味でこの文学賞は非常に役に立つ事であろうと思っております。第 1 回の「びぶりお文学賞」の贈呈はすでに昨年行われました。

以上の様な色々な核を作って大学が外から見える形をしっかりと出していき、発展をしていく様にしたいと思っております。

ここでもう一つ大事な事は外から見える様な核になる研究以外の研究、本当に基礎的な研究はなかなか外から光が当たらないものです。これもしっかりと支援していく必要があると思っております。特に研究の面では、昨年からは若手研究者、女性研究者、外国人研究者に支援をしっかりとやっていくことにしております。これは、将来にとって非常に大事な事です。しかし本当に基礎的な研究、あまり目立たない研究をどうやって支援していくかという事が重要であります。昨年は科学研究費

の相談窓口を設けました。それから概算要求等に関してもしっかりと戦略的に獲得していく様にと  
いう事をやっておりますが、これは引き続きやっていきたいと思っております。それから先程ちょっと申  
し上げました防災関係の研究センター、これは非常に地域にとりましても重要な事でありまして、  
大学の大きな目玉になりますので、しっかりやっていきたいと思っております。

学部・部局の教育研究活動の次は、昨年末教育研究評議会では申し上げましたけれど、「特別教  
育研究経費」、簡単に言いますと概算要求の結果でございます。一つは先程申しました観光産業科  
学部が4月に設置されます。こちらは昼間の学生が120名、夜間が20名、計140名の学生定  
員で出発致します。研究経費等のプロジェクト分としましては先程も申し上げました「人の移動」  
に関する研究、それから医学部の沖縄県や九州でたくさんみられます HTLV-1 関連疾患等の研究な  
どで、計2億2千万円のお金が付いております。それから今年度からの継続分の7件はいずれも採  
択されております。附属図書館の貴重資料修復保存分や附属小学校の整備それから附属病院の財投  
によるもの、これはすべて採択されておまして、計約13億円の予算を受け取る事ができます。  
しかしながら我々の大学は去年の運営費交付金が134億円でしたが、来年度は130億  
円で4億円の減になっております、この理由は文科省全体としてみますと1%の経営効率化係数に  
よるものが120億円減でございます。しかし文科省はかなり頑張ってくれまして基礎的研究で1  
25億円程獲得し、この1%減の部分は帳消しになっております。ところが、退職手当、これは今ま  
で少し多めに緩やかに計算して各国立大学法人に財務省から配っていたようですが、それをキチキ  
チにやっていくという事で、そちらの減が235億円でございますから文科省全体としましては結  
局は230億円の減でございます。しかしながら概算要求で事務方の大変な頑張りもございまして  
私共の大学はトータルとしては4億円減だけなんです。概算要求でかなり沢山のものを獲得  
しております。

その他、大学では、「エコアクション21」、これは施設運営部等が進めているところですが、  
認定を受けるように準備をしております。昨年本部及び図書館の周囲について認定を受けましたが、  
大学が広いものですから3年間に分けて認定を受けます。皆様方もご覧になりました通り朝日新聞  
の今年の元旦の一面の記事は地球温暖化でございました。この3日間各新聞社、それからTVも温  
暖化についての色々な特集を組んでいました。確かに温暖化が進んでおります。この温暖化の原因  
について色々な意見があると聞いておりますけれど、CO<sub>2</sub> は人間の色々な産業活動や生活で排出さ  
れ、1年では70億トンであると言われております。他方、地球が処理できる量が30億トンという事で  
ございまして、毎年40億トンずつ溜まっていっているようです。これはしっかりとした対策を立  
てる必要があります。日本は京都議定書で2012年までにCO<sub>2</sub> の排出量を1990年よりも6  
%減少させるという事を言った訳でございますが、残念ながら毎年CO<sub>2</sub> の産生排出は逆に増えて  
いるという事を聞いております。こういう事もございまして大学としましては率先してCO<sub>2</sub> の  
問題やエコロジーについての啓蒙、そして教育研究をやっていく必要があります。エコアクション  
21の認定を今年もしっかり受ける様にしております。

次に学生の就職支援です。これは就職センターの皆さんの活躍でどんどん学生の就職意識がよくな  
っておりますが、さらに努力する必要があります。その他と致しましては「やわらかい南の学

と思想、琉球大学の知への誘い」という題で、大学にありますいろんなたくさんの研究や英知を分かりやすい本にして出版し、社会に向けて琉球大学のやっている事をお見せするという事を考えておりました、沖縄タイムス社が出版を引き受けてくれることになっています。それ以外にも放射線医学総合研究所と琉球大学との協定を昨年結び、癌の治療等に益々の進展が望めます。

以上、少し細かな話まで致しました。今年は昨年お話しした様に、経済的にはかなり厳しい状況ではございますが、厳しい厳しいと言っているだけではだめで、今年は少し攻めの姿勢に転じ、こういう時代であるからこそ地方の大学では落ち着いてしっかりとした教育と研究を発展させていきたいと思っております。

琉球大学が益々発展し、皆様方が益々発展される様に祈っております。簡単ではございますけど年頭にあたりましてご挨拶を申し上げます。どうもありがとうございました。

2008年1月4日

琉球大学長 岩政輝男